

PhotoshopのEPS保存

(Photoshop CS3の場合)

忘れていませんか?『画像の統合』

EPS形式は永らく印刷業界での標準形式でした。業界標準なので当然、データを処理する機材もEPS形式を前提としたものが多く、現在でも第一線で稼働している機材は少なくありません。そんなEPSデータですが、保存時の注意ひとつで良いデータにもNGデータにもなります。

今回はPhotoshopで文字を扱った場合のケースを主眼において説明します。



1 誤ったEPS保存

【例】「サンプル」の文字をPhotoshop上で打ち込み。

右図は文字を打ち込んだ後、画像が統合されていない時のレイヤー構造を示す画面(文字レイヤーが生きている)です。この状態でEPS形式保存を行おうとすると、右下図のように表示されます。

ファイル名末尾に「~のコピー」が追加される。

⚠警告マーク及び警告メッセージが表示される。

もちろん、ファイル名は編集可能ですので、「のコピー」の部分を削除してしまえば、一見して普通のEPSデータと見分けがつかなくなります。



こうして保存されたEPSデータを再びPhotoshopで開こうとすると、右図のようにラスターライズして読み込もうとします。当然ですが色に関しては元のデータとは変わってしまいますし、解像度やサイズといった数値も、同じ値を入力できたとしても元通りには決して再現されません。

2 正しいEPS保存

右図のように画像が統合されている状態(背景レイヤー1枚のみ)でEPS形式保存を行えば、下図のとおり警告は現れません。この状態がEPS形式では「正しい保存の方法」ということになります。

ファイル名末尾に「～のコピー」が追加されない。

「オプションを保存」にチェックが入っていない。

警告マーク及び警告メッセージが表示されない。



3 オプション選択

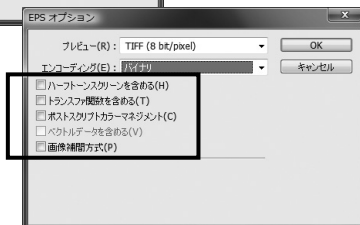
最後にEPS形式保存のオプション選択です。

※画面はWindows用。Macintoshの場合、『レビュー』は『Macintosh (8bit/pixel)』になります。

エンコーディング: バイナリ

チェックボックス: すべてオフ

以上がEPS形式保存をする際の注意点です。基本的な考え方は「とにかく警告を無視しない!」ことです。急いでいる時こそ注意してください。



とにかく警告を無視しない!!